



町内の小中学校で卒業式 次の舞台でも努力を続けて



↑目がしらを押さえる姿もあった、学び舎での最後の合唱（川床中学校）

町内の中学校で3月13日、小学校で22日、卒業式が行われました。今年卒業した中学生102人、小学生71人は、保護者や教職員、地域住民などに見守られ、学び舎から旅立ちました。

川床中学校（脇田武志校長・53人）では、男子15人、女子5人が卒業。脇田校長が卒業生一人ひとりに卒業証書を手渡し、『『陰徳あれば陽報あり』。努力を重ねて、人間的な成長につなげてほしい』とはなむけの言葉を贈りました。卒業生代表の中村聖海さんは「中学校生活はかけがえのない思い出。支えてくれた全ての人の誇りになれるように頑張ります」と別れのあいさつをしました。

最後の合唱では、涙を流して歌う卒業生の姿に下級生も顔をゆがめ、別れを惜しんでいました。

第12回関西ながしま会 ふるさとを懐かしむ

本町出身者で組織される「第12回関西ながしま会交流会」が3月17日、大阪市の太閤園で開催されました。

今回は、20代から最高年齢93歳までの幅広い世代の町出身者176人が出席し、島美人や島娘を酌み交しながら、お互いの近況報告やふるさとの思い出話に花を咲かせました。

会員による舞踊とカラオケや恒例の町特産品が当たる抽選会もあり、会場は盛り上がりを見せました。

最後は出席者一同の総踊りが行われ、会場の雰囲気最高潮に達したとともに、来年の再会を楽しみに閉幕しました。



↑出席者全員で記念撮影



↑車両の贈呈を受ける中納会長（写真右）

福祉車両贈呈式 幅広く貢献することに期待

日本財団車両助成金事業で町社会福祉協議会が取得した車両の贈呈式が、3月18日、町保健福祉センターで開かれました。

式では、中納武徳会長が「高齢化が進行している本町にとって、有難い。福祉の充実した町づくりに努めたい」とあいさつしました。

車両は車いすに高齢者を乗せた状態で乗車できるリフト式で、福祉活動に幅広く貢献することが期待されます。